



<表紙写真説明>

去年の8月末、東京では3日間連続で雷雨に見舞われた。その中29日の日曜日は最も強く、都内ではあちこちに落雷や出水騒ぎがあつて夏の終りにふさわしい話題となった。

写真はその日の15時半頃東京の真ん中、銀座に落ちた雷公様、折から屋上にカメラをすえて構えていた新聞社カメラマンに捕えられたもの。幸い、これは電柱のトランスを焼いただけで大禍はなかったが、この日もその翌日30日も各地に落雷や停電があり、列車電車が立往生したり、短時間の強雨で日比谷の交叉点が河のようになって都民の足をとめた。前日まで太平洋高気圧に蔽われていた本州は日本海から三陸沖にぬけた低気圧に伴う前線の影響を受けて、日中前線が一寸北上関東内陸に入ったが夕方南下して、同時に関東南部や静岡沿岸に強雷をもたらした。東京の日中の最高気温は33.3℃、雷雨による雨量は13.1mm、10分間最大が6.3mm。都内の芝浦では74.5mm、深川でも60.2mmに達した。

(予報課 福井 篤)

— ◁ 目 次 ▷ —

表紙写真	ドロップゾンデ	朝日新聞社提供 (説明は12頁)
表紙2写真	銀座の真中に落ちた雷	読売新聞社提供
表紙3写真	山形測候所と藏王山の樹氷	多田 智氏撮影

天気予報の歴史	渡 辺 和 夫	1—6	
故伏木測候所長大森虎之助君をしのびて	佐 藤 順 一	7—8	
第二次大戦後欧米気象学はどのように輸入されたか	渡 辺 次 雄	9—12	
日本の高層観測の歴史 (I)	大 井 正 一	13—14	
報 文	初代中央気象台長荒井郁之助	堀 内 剛 二	15—17
	梅雨の入りとモンスーンの入り	朝 倉 正	18
	大気中の人工放射能と気象	根 本 順 吉	19—20
フロモフ教授小伝	倉 嶋 厚	21—24	
十七世紀の湿度計と気象観測	奥 田 穰	24—25	
夏の富士山頂の一面	藤 村 郁 雄	26	
太陽熱利用分科会発足について		14	
原子力に関する国際会議について		27	
山形測候所	門 脇 四 郎	表紙 3	
書 評	Climate and British Scene ; The English Climate	27	
雲 鏡		28	